

## 「ぼくみたいな病気の子がふえないように」

小学1年生のりんちゃんは、食事が原因で深刻な化学物質過敏症を発症。発達障害も疑われましたが、ミネラル補給を始めたなら両症状とも改善。ミネラルの持つ可能性がまた一つ広がりました。



### ふりかけで意識を喪失

「この子は、死にかけました」。りんちゃんのお母さんに初めて会ったときに聞いたこの言葉は、今思い出しても衝撃的です。

りんちゃんが2歳になったときでした。家でごくふつうに食事をしている最中、突然、意識を失ったのです。

救急病院で何を食べたか聞かれ、答えていくと、市販のふりかけに含まれている食品添加物が原因の化学物質過敏症かもしれないと言われました。

化学物質過敏症は、建物や家具の防腐剤や接着剤、農薬や食品添加物、自動車の排気ガスなど、私たちが不可抗力的に吸い込んでいる化学物質が、極微量でも個人の体の対応能力を超えて、発生する症状のこと。

一度発症すると、極微量でも症状がひんぱんに出るようになり、さらに特定の化学物質だけでなく、多様な化学物質に反応するようになります。

また、人によって症状が違い、目や鼻、耳、皮膚、呼吸器、循環器、消化器、神経、内分泌など、体のさまざまなところに症状が現れるのが特徴です。

りんちゃんのお母さんは、以後、食べ物には十分気を付けるようになりました。しかし、3歳になる直前、友だちが食べていた市販のお菓子を食べた2時間後、「息苦しい」「胸が苦しい」と訴え、全身に蕁麻疹を発症。再び、慌て

て救急病院に連れて行きました。

治療中、お母さんは、「このまま死んでしまうのではないか」という不安に襲われたといいます。

直後に、今度は川崎病にかかり10日間の入院生活をしましたが、点滴治療のせいで、化学物質過敏症を発症。口内炎がおさまらず、苦しくて一晩中叫ぶ日々が続きました。

その後も、薬の種類によっては化学物質過敏症の症状が出るがあったので、4歳のときに専門医に診断書を出してもらい、処方薬にも気を付けるようになりました。

### 発達障害の疑いも

化学物質過敏症の症状がでた直後の2歳半検診で、発達障害の疑いも指摘されました。

当時、言葉の遅れや斜視があり、集団生活を嫌がってお遊戯など周りの子どもと同じ行動をしないなどの傾向がありました。

その後も突発的な行動や、些細なことでキレる振る舞いがひんぱんに見られましたが、お母さんは、それが化学物質過敏症によるものなのか発達障害によるものなのか、判断が付きませんでした。

実際、『化学物質過敏症BOOK』（宮田幹夫著）によると、化学物質過敏症の子どもの場合、ちょっとした刺激で興奮しやすくなったり、粗暴な行動をとったりする事例が、アメリカで報告されています。発達障害と化学物質過



敏感症は似た症状があるのです。

また、同書は、新築の自宅や学校で室内の有害物質の濃度が高くなっている場合、子どもは強い不快感を抱くと指摘していますが、実は、りんちゃんも、生後10ヵ月のときに、新築の住宅に引っ越した経緯がありました。

お母さんは、「赤ちゃんのときからの影響もあるのではないかと思います。医者からは発達障害かもしれないと言われましたが、化学物質過敏症との関連を強く感じていたので、この子は発達障害だという意識は、正直、あまり持っていませんでした。むしろ、化学物質過敏症を幼稚園や学校で理解してもらうことが大変でした」と話します。

例えば、りんちゃんは、昨年4月から小学校に通い始めると、頭痛や胸の苦しさを訴えることが多くなり、授業に集中できなくなることがよくありました。しかし、学校では、「授業が嫌いだからだろう」「怠けているだけ」と言われがちです。

教科書などに使われているインクで目が痛くなったり、気持ち悪くなったりすることもありました。

また、プールの塩素にも反応するのでプールに入れず、授業中に具合が悪くなって保健室に行くと、保健室の薬品の臭いに反応してさらに体調が悪くなることもありました。

このため、登校を嫌がることもよくありましたが、お母さんは、りんちゃんの体調を注意深く見ながら、無理をさせることはけっしてありませんでした。

### ミネラル補給を開始

無農薬野菜や食品添加物無添加の自然食品の店で働き、かねて食事と病気の関係に関心を持っていたお母さんは、りんちゃんが小学校に上がった昨年4月から、本格的なミネ

ラル補給を始めることにしました。

煮干し、あご(飛魚)、昆布の粉末を混ぜた『天然だし調味粉』を、毎食、いろいろなおかずに混ぜたりするほか、本誌でも紹介している『ママスペシャルスープ』もつくるなどして、粉だしを1日に大さじ2杯は摂取するよう心掛けました。

りんちゃんは、友だちと同じお菓子や給食が食べられないので、毎日、お弁当を持参していますが、お弁当のご飯を炊くときにも必ず『天然だし調味粉』を混ぜ込んでいます。

入学当初は、毎日の給食の献立を見て、同じようなメニューになるよう作っていましたが、最近は、「給食と同じじゃなくて大丈夫。お母さんのお弁当の方が美味しいから」と言うほど、お母さんのミネラル補強お弁当がお気に入りの様子です。

帰宅後も、おやつに『ママスペシャルスープ』や『天然だし調味粉』入りのおにぎりを食べ、夕食も、味噌汁や、カレー、煮物、きんぴらなどにたつぷりと粉だしを入れ、食べているということです。



### キレなくなり、体調も改善

りんちゃんに変化が見え始めたのは、ミネラル補給開始から2週間後のこと。

「それまで、すぐに怒ったり、キレたりすることがあったのが、些細なことでは怒らなくなりました。妹と喧嘩しては、物で叩いたりつねったりしていたのですが、それもなくなりました。『あーここでキレル』と私が予測する場面でも、キレないのです。



化学物質過敏症特有の体の不調を訴えることも減りました。例えば、放課後デイサービスに行くと、トイレの芳香剤に反応するのか、必ず右目を真っ赤に腫らして帰ってきていたのが、目が腫れなくなったのです。とても驚きました。

また、喘息もあって、走るとすぐ咳が出ていたのですが、今は走っても出なくなっています」と、お母さんは報告してくれました。

ミネラル補給を続けると、りんちゃんの体調はさらに良くなり、9月にお母さんと会ったときには、うれしそうにこう話してくれました。

「朝の寝起きもすごく良くなりました。毎朝、抱きかかえてようやく起きていたのが、ずっと自分で起きてくるようになりました。きっと眠りが深くなったのだと思います。今まで夜中にうなされていたのですが、今はぐっすりと眠っています。

嫌がっていた宿題も、さっさとするようになりました。以前は学校から帰ってくると疲れ果ててしまっている状態でした。

物忘れがひどかったのも治まりました。翌日の学校の支度も嫌がっていたのに、今は帰宅したら宿題をして、明日の準備もしてしまっています。朝早く起きて、登校する前に本を読んだり、勉強したりすることもありますですよ。

免疫力も強くなっているように感じます。今までは、インフルエンザにかかると、そのまま数カ月喘息の発作が出ていたのですが、それがなくなりました。

先日、インフルエンザにかかったときは、蕎麦粉で作った団子を具にし、だしをたっぷり使った味噌汁と梅干し、葛湯を食べさせたら、3日で治りました。

化学物質過敏症は、公共の乗り物に乗るの

が辛く、旅行の際は家のものを全て持っていかなければならないので、荷物が大量になります。そこで、どうしても自家用車で移動することになりますが、化学物質過敏症の一つであるシックカーの症状もあり、車に乗ると気持ち悪くなっていました。ところが、最近は平気で乗っていられるようになり、遠出も苦になりません」

## 絵にも変化が

ある日、お母さんから、りんちゃんの描いた絵の写真が2枚送られてきました。写真には、「『食べなきゃ、危険』に出てくるこうちゃんの絵の変化が印象的でしたが、息子の絵も明らかに変わってきています」というメッセージが添えられています。

1枚目は、とがった歯が印象的で、火山の爆発も描かれ、何かにイライラしている様子が感じられます。昔描いた絵ということでした。

対照的に、最近描いたという2枚目の絵は、カラフルな虹のもとで、にんじんなどの野菜が楽しそうな表情で描かれています。りんちゃんは最近、虹の絵を好んで描くそうです。その虹も、最初は白黒でしたが、今は何色も





使って描くということです。

多色使いは、感情の幅が広がってきたことを意味することが多く、虹のモチーフは、次の段階に進むときの成長段階でよく見られるパターンです。

ミネラル補給が定着して半年。りんちゃんの安定した日常生活や感情面の顕著な変化が絵の表現からも感じとれます。

お母さんもこう証言します。

「何かにつけて、気にしてイライラするようなことがあったのですが、『まあいいか!』と割り切って、いやな感情を引きずらなくなりました。

また、自発的に整理整頓するようになり、学校の先生からも、『すんでいろいろな事をしてくれるようになりました』と言われています。

そして何より、気持ちに余裕が出てきたのか、とてもやさしくなりました。私をいたわってくれ、『休んでいていいよ』と言ってくれることもあるのです」

### 地球やみんなのことを考えるように

うれしい変化が続く中、最近のりんちゃんは、地球環境のことを本で調べたり、考えたり



するようになりました。

なぜ、自分は友達と同じお菓子を食べられないのか、なぜ頭が痛くなったり気持ち悪くなったりしていたのか、と化学物質過敏症の症状についてお母さんに聞

いてきたことがあるそうです。そのときお母さんは、農薬や大気汚染のことを説明したといます。

「つい最近、お母さんとりんちゃんは、こんな会話を交わしました。

りんちゃん「おかあさん、ぼくみたいな病気の人がいるのは、てんかぶつやのうやくで、川や、空気、海がよごれているからなんですよ。どうして、ちきゅうがよごれるものをみんなはつかうの?」

お母さん「みんな、地球が汚れてしまうものを知らないで、お店に普通にあるものを買っているんだと思うよ」

りんちゃん「ちきゅうが、よごれるものをつかったら、みんなにかえってきて、みんなのからだもよごれちゃうのよ。おかあさんのおしごとで、みんなにおしえてほしいな〜。ぼくみたいなびょうきになる子がふえないよう、おかあさん、がんばって」

お母さんは、これまでを振り返り、こう話します。

「化学物質過敏症に対する解決策は見つかっていないのが現状です。でも、個人差はあるとは思いますが、ミネラル補給を毎日しっかり続けることで、こんなにもわが子の体が楽になり、心身ともに本来のこの子の良さが出ていることに驚きと喜びを感じます。

同時に今は、同じように困っている人たちに、私たちの体験を情報として伝えていきたいと考えています。親子でとてもつらい経験をしてきましたが、これからはこの体験を大勢の人たちに生かしてもらいたいです」

りんちゃんや、りんちゃんのお母さんのこうした思いを聞き、私も、これまで以上に、正しい情報をきちんと発信していかなければと、改めて身が引き締まりました。

国光美佳(「子どもの心と健康を守る会」代表)